

福岡大学防犯ボランティア ななくま元気にするっ隊（福岡県）

活動地域と団体の概要

皆様、こんにちは。私たちは福岡大学防犯ボランティアななくま元気にするっ隊からまいりました。大勢を前にしての発表は、慣れないこともありとても緊張しておりますが、どうぞ皆様、最後までよろしくお願いいたします。

私たちが活動する福岡市は、九州各地やアジアから人が集まり、九州最大の経済都市を形成しています。また、博多どんたくや博多祇園山笠に代表されるように、元気あふれる都市でもあります。私たちは、平成22年6月、警察庁の「若い世代の防犯ボランティア支援事業」をきっかけに発足しました。当時、福岡大学内には、障害者支援や児童福祉等のボランティアはありましたが、防犯ボランティア団体は私たちが初めてでした。

メンバーにはボランティア活動の経験がある方や、これからボランティアを始めたい方が学部や学年を越えて集まりました。防犯活動を行うには地域とのつながりが大切であると考え、福岡大学がある七隈の地名を用い、また、学生と地域の連携の架け橋になって、学生の元気を地域に生かしたいと思い、ななくま元気にするっ隊という団体名を付けました。「隊」には、博多弁の「たい」もかけています。

団体の概要～地域活動

続きまして、活動内容について紹介いたします。発足にあたり、地域と連携して活動していくことを決めましたが、多くの学生が福岡大学周辺に下宿しているにも関わらず、地域の方との連携はほとんどない状態でした。そこで、地域との連携には、まず学生である私たちが地域のことを知らなければならないと思い、調査を兼ねて地域清掃活動を行うことにしました。七隈校区を中心に福岡



大学周辺の清掃をしていると、地域の方が声を掛けてくださり、多くの感謝の言葉を頂きました。地域清掃活動は、私たちの定期的な活動となっています。



福岡市中央区大名地区は若い人に人気があり、深夜までにぎわっている地区です。ですが、壁や街路灯には多くの落書きがあり、大名地区を中心とした地域の方が月に1回清掃活動と落書き消しを行っております。この活動に私たちも福岡市内の学生防犯ボランティアで結成しているACT(アクト)のメンバーと共に参加し、住民の方と壁に書かれている落書きや、建物に貼り付けられているステッカーをへらを使って剥がし清掃しています。何度か活動に参加するうちに、落書きの消し方やステッカーの剥ぎ方のコツを覚え、今では楽しみながら参加しています。



警察の方から、福岡大学周辺は二輪車の盗難が多く、福岡大生も多くの被害に遭っていると聞きました。また、福岡市内の性犯罪の発生は全国でも多いということを知り、大学内や大学周辺で二輪車盗難防止キャンペーンや性犯罪防止キャンペーンを行いました。そのほかにも、警察の方が主催する万引防止キャンペーンや振り込め詐欺防止キャンペーンなどに参加させていただき、万引防止連絡協議会や証券業協会など普段は接することのできない方々と一緒に活動させていただきました。



最近では、新たに防犯教室にも挑戦しようと考えています。私たち学生は、これから社会人

になっていくに当たり、大勢の方々の前で話すことや、いろいろな方々と接する機会が増えると思うので、防犯ボランティアを通じてコミュニケーション能力を高めたいと思いました。そのことを警察の方々に相談したところ、防犯教室で防犯講話をしてみてもどうかと提案してくれました。といっても、最初から学生だけで防犯教室をすることは難しいので、警察の方が行っている防犯教室と一緒に参加させてもらい、勉強させてもらっている段階です。写真は、小学校での防犯教室の様ですが、小学生はみな真剣に講話を聞いていました。今はまだ、警察の方にリードしてもらっていますが、いずれは自分たちで内容を企画し、防犯教室を開きたいと思っています。

平成 23 年 6 月に福岡市内の学生防犯ボランティアの集合体 A C T が発足しました。メンバー校は、福岡大学の他に福岡工業大学、西南学院大学、麻生公務員専門学校福岡校です。団体名の A C T は Arch of College Team の略称で、学校と学校、人と人とのつながりという意味が込められています。A C T では、先ほど紹介した大名地区の落書き消しを主な活動としています。A C T での活動を通じて他大学との学生の交流を深め、情報交換をすることができ、それぞれの団体の活動の幅が広がる、とても良い機会となっています。



活動の概要～学生による団体運営

次に学生による団体運営について説明します。大学生が防犯活動に参加している例は少ないため、活動していると反響が大きいことを感じます。しかし、防犯活動の効果はすぐに現れるものではないため、モチベーションを維持しながら活動を継続していくことは難しいと感じます。また、大学での勉強の他にアルバイト等で忙しい人も多く、就職活動が始まると、ますます継続して活動に参加することが難しくなります。その結果、私たちの団体も構成員数は多いのですが、実際に活動に参加する学生が少なくなりつつありました。

これではいけないと思い、幹部メンバーで、ワークショップ形式の話し合いをしました。団体の現状と課題をみんなで抽出し、その解決策を検討しました。それぞれが団体に対して感じていた課題は、みんなほぼ同じでしたが、このような検討会はしたことがなかったので、メンバーの意思統一には、とても良い機会となりました。ワークショップで検討した結果は、次のとおりです。

団体の課題として、隊員へのサポートがうまくできていないということが挙がりました。これまでは隊員が定期的に来るということはせず、リーダーから隊員へのメール配信で活動を知らせていました。これでは連絡が行き届かないこともあります。そこでグループリーダー制を導入し、連絡体制を新たに見直すことにしま



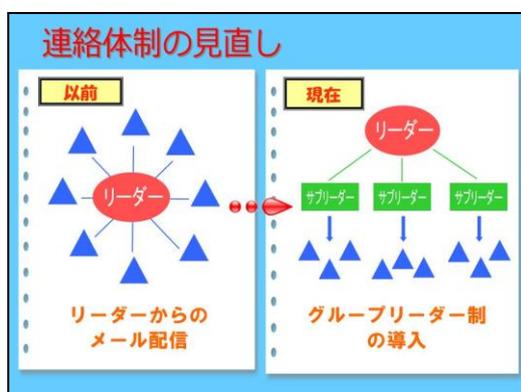
課題	対策
隊員へのサポート	グループリーダーの導入
連絡体制の不備	新たな企画に挑戦
受動的な活動	後輩への引継

◆重要なこと◆

- ◇学生自らが団体運営について考える。
- ◇団体の課題は、メンバーみんなで解決していく。

した。詳しくは後ほど説明します。また、活動が受動的になりつつあるということも、課題として挙がりました。これまで続けてきた清掃活動や、警察の方が企画した活動に参加するだけでは活動がマンネリ化してしまい、防犯活動に楽しさを感じられず継続して活動に参加してくれる学生が減っていく原因になります。

そこで、これまで活動に参加してきたメンバーが、活動を通じて得たノウハウや知識を活用して、学生でも新たな企画に挑戦しようということになりました。そして、一番重要なことは、隊員一人一人がメンバーとして団体運営について考え、団体の課題を一部のリーダー任せにせずメンバーみんなで話し合って解決していくことです。そうすることで、会員間の絆が深まり団体の雰囲気も良くなり、その仲の良い雰囲気を見た学生が防犯活動に興味を持ってきてくれることを期待しています。



次にワークショップの結果を踏まえ、私たちが実行していったことについて説明します。まずは連絡体制についてです。先ほど説明したとおり、以前はリーダーから隊員への一斉メール配信で、活動を知らせていました。これでは連絡が一方通行になり、隊員みんなの疑問や要望を聞く機会を確保することができません。また、リーダー1人が全隊員からの返事を取りまとめないといけないので、とても大きな負担になります。

そこで考えたのが、グループリーダー制です。写真の右にあるようにリーダーの他に数名のサブリーダーを決め、そのサブリーダーを中心に小グループを作り、グループ内で意見の取りまとめ、全体に反映させるようにしました。



福岡大学内には、私たちの他にも福祉や災害のボランティアで活動している学生がいます。そうした学生が中心となってボランティアに興味のある学生や、既にボランティアを始めている学生の相互交流を目的に、ボランティア体験報告会、交流会を検討、企画、開催しました。防犯以外の活動の体験談を直接聞いたことで、ボランティア活動をより身近に感じられ、隊員勧誘の方法や団体の継続方法などについて参考

になる意見を聞くことができました。また、私たちの団体のアピールをすることができ、この体験報告会の後、ななくま元気にするっ隊に加入してくれた学生もいました。

また、ブログも開設しました。隊員全員が全ての活動に参加するということにはできないので、実際にした活動をブログに載せておくと、活動に参加できていないメンバーが、ブログにより活動を知ることができます。その他にも、今後の活動についてお知らせしたり、

団体について考えている意見や疑問をブログにコメントできるようにしています。また、ブログを見て、入隊してきてくれた学生もいます。

4月の入学シーズンは、新規隊員を勧誘するには絶好の機会です。学内にブースを設け、自分たちで作った団体アピールチラシを使い勧誘しました。防犯というと堅いイメージを持たれるかもしれないので、防犯ボランティアを通じて、様々な人と触れ合うことができ、これまでの活動事例を踏まえながら、防犯ボランティアは楽しそうだなと思えるような説明をしています。今年は新たに12人の新入部員を迎えることができました。他の学生に団体をアピールするためには、学内での活動も必要です。今年4月は学内での飲酒マナーアップキャンペーンを企画し行いました。新入学シーズンは、学生も飲酒の機会が増え、急性アルコールで倒れる学生もいます。そこで、学生で話し合った結果、防犯に直接結び付かないかもしれないが、新入学シーズンには必要なテーマだということになり、このキャンペーンを企画しました。もちろん、こちらのチラシは手作りです。



活動で得られたこと

最後に、防犯ボランティアを通じて得られたことについてお話しします。一つは自分から積極的に動くことの大切さを知ったことです。ボランティア活動だからといって、ただ参加するだけではなく、真剣に防犯を伝えていくためには、一つ一つの活動に心を込めて行わなければなりません。また、学生が、大学の勉強をしながら活動を継続していくには、隊員一人一人が団体運営を考えていかなければなりません。

そして二つ目は、防犯ボランティアで人と人とのつながりが生まれたことです。活動を通じて、同世代だけではなく、幅広い世代、職種の方と交流する機会が生まれました。様々な人と接する中で、目上の人との話し方、今日のように大勢を前にしての話し方や警察や行政の方へのメールの送り方など、防犯以外での多くのことを勉強することができ、今後社会人になっていく私たちにとって大変貴重な経験となっています。また、防犯ボランティアで最も大切なことは、学生だけではなく、地域の方、企業の方、行政機関の方など、様々な人と共同して活動を展開していくことが必要で、それぞれが持っている知識やノウハウをうまく組み合わせていくことが大切だと感じました。そして、私たち学生防犯ボラ

防犯ボランティアを通じて得られたもの...

- ◇自分から積極的に動くことの大切さを知る。
- ◇人と人とのつながりが生まれる。

ンティアとしては、若者として新たな視点と元気を防犯活動に生かしていかなければならないと考えています。

説明しましたとおり、私たちは防犯ボランティア活動を通じて、いろいろなことを得ています。このことを後輩や、まだ活動に参加していない学生に伝えていき、1人でも多くの若い人に防犯ボランティアの活動に参加してもらいたいと思っています。これからも、人と人とのつながりを大切に、学生と地域の絆で安全・安心な社会を築いていけるように頑張っていきますので、皆様、今後とも、私たち、ななくま元気にするっ隊をどうぞよろしくお願い致します。

質疑応答

●会場 質問ではありませんが、要望を一言。学生さんの発表を聞きまして、地域に貢献していただいたわけです。熱意がヒシヒシと胸に伝わってきます。非常に感心しております。いま一番問題になっているのが、性犯罪とか自転車泥棒とか単車泥棒、こういった犯罪が非常に多くなっている中で、このような活動をしていただくということは、私たち地域として感謝申し上げたいと思います。恐らくボランティアですから、表彰されることは願ってはいないと思いますけれども、できましたら、4年間やられた実績を基にして表彰をしてあげるような仕組みを行政として考えてほしいなと思います。よろしく申し上げます。どうもありがとうございます。

○回答 ありがとうございます。

●質問 素晴らしいお話ありがとうございました。学生の方で、このように大変素晴らしいボランティアをされていることに、大変好感を抱きました。地域とのつながりをつけるときに、いまどのようにしてやってらっしゃるのか、具体的に、よろしければ教えていただいてよろしいでしょうか。

○回答 はい。福岡大学内に地域ネット推進室という部署がありまして、そちらに地域の方が連絡していただいて、そちらから自分たちの団体のほうに連絡が来るようになっています。他の団体さまも、そちらに問い合わせをいただいたら、活動に参加できると思います。